

テーマ	総合原価計算（組別総合原価計算・連産品）
-----	----------------------

1. 次の資料に基づき、先入先出法によって、各組製品の完成品総合原価、単位原価、月末仕掛品原価を計算しなさい。

〔生産データ〕

A 組 製 品			B 組 製 品		
月初仕掛品	20 個	(80%)	月初仕掛品	15 個	(40%)
当月投入	45 個		当月投入	95 個	
合 計	65 個		合 計	110 個	
月末仕掛品	15 個	(40%)	月末仕掛品	20 個	(60%)
完 成 品	50 個		完 成 品	90 個	

※（ ）内は加工進捗度を示している。

※材料はすべて始点で投入している。

〔原価データ〕

		A 組製品	B 組製品	合 計
月初仕掛品原価	材料費	¥3,700	¥3,450	¥7,150
	加工費	¥3,200	¥444	¥3,644
当月製造費用	材料費	¥9,450	¥19,000	¥28,450
	加工費			¥12,000

〔その他〕

材料費は組直接費、加工費は組間接費として処理する。なお、組間接費は各組製品の作業時間によって配賦する。

	A 組製品	B 組製品
作業時間	60 時間	40 時間

A 組 製 品 完 成 品 総 合 原 価	円
A 組 製 品 完 成 品 単 位 原 価	円
B 組 製 品 完 成 品 総 合 原 価	円
B 組 製 品 完 成 品 単 位 原 価	円

テーマ	総合原価計算（組別総合原価計算・連産品）
-----	----------------------

2. 次の資料にもとづき、先入先出法により組製品A、Bの月末仕掛品原価、完成品総合原価を計算しなさい。

〔資料〕

① 当月の生産データ

A 製 品		B 製 品	
月初仕掛品	950個 (40%)	月初仕掛品	570個 (40%)
当 月 着 手	<u>1,710個</u>	当 月 着 手	<u>2,660個</u>
合 計	2,660個	合 計	3,230個
月末仕掛品	<u>760個 (50%)</u>	月末仕掛品	<u>380個 (10%)</u>
完 成 品	<u>1,900個</u>	完 成 品	<u>2,850個</u>

② 当月の製造原価データ

		材料費	加工費
月初仕掛品原価	A製品	34,200円	46,740円
	B製品	25,080円	40,343円
当月製造費用	A製品	157,320円	395,010円
	B製品	122,360円	

③ 材料費は組直接費、加工費は組間接費として処理している。組間接費は各組製品の加工時間を基準に配賦している。

当月加工時間

A製品	2,660 時間
B製品	1,729 時間
合 計	4,389 時間

	月末仕掛品原価	完成品総合原価
A 製 品	円	円
B 製 品	円	円

テーマ	総合原価計算（組別総合原価計算・連産品）
-----	----------------------

3. 次の資料に基づき、市価法により連結原価を連産品 A、B に対して配賦し、それぞれの連結原価配賦額を求めなさい。

【資料】

① 生産データ

当工場では 2 種類の異なる製品（連産品）を製造しており、当月の完成品は 500kg である。連産品は第 1 工程の終点で分離され、その内訳は連産品 A が 300kg、連産品 B が 200kg である。なお、仕掛品はない。

② 第 1 工程に関する原価データ

当月投入原価は材料が 204,000 円、加工費が 202,500 円であった。

③ 連産品 A について

連産品 A は分離後、さらに第 2 工程で追加加工を行い製品 C として販売する。

④ 製品 C と連産品 B の正常市価および見積分離後加工費

	製品 C	連産品 B
正 常 市 価	@2,400 円	@1,650 円
見 積 分 離 後 加 工 費	150,000 円	0 円

	連 結 原 価
連 産 品 A	円
連 産 品 B	円